

## がんと糖尿病

～がんに罹っても糖尿病と上手に付き合うには～

### 糖尿病とがんの関係

糖尿病は、インスリンというホルモンの作用が十分なために血糖値が慢性的に高くなる病気です。食生活の欧米化と共に、日本でも糖尿病患者は増加しています。自覚症状が乏しいまま進行しやすく、放置すると全身の臓器に影響を及ぼし、時として命に関わることもある病気です。糖尿病とがんは、それぞれ頻度が高いために重なりやすいというだけでなく、お互いに密接に関連しあう病気だということが分かってきています。

かつて糖尿病患者の主な死因は脳血管障害や虚血性心疾患、慢性腎不全などの血管合併症でした。しかし1990年代以降、悪性新生物、つまりがんによる死亡が最も多くなり、直近では糖尿病患者の死因の4割近くをがんが占めるまでになっています。



県立静岡がんセンター  
内分泌代謝内科部長

おおかわ ゆうた  
大川 雄太氏

2008年浜松医科大学医学部卒業。浜松医療センター、浜松医科大学医学部附属病院、沼津市立病院などを経て、2021年より現職。日本内科学会認定総合内科専門医、日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医、日本糖尿病学会認定糖尿病専門医。

す。糖尿病治療の進歩により血管合併症を克服しつつある一方で、今後は糖尿病患者のがんによる死亡をいかに減らせるかが新たな課題となっています。

日本人の糖尿病患者は、糖尿病のない人に比べて約1.2倍がんになりやすいとされ、特に肝臓がんや膵臓がん、大腸がんなどの消化器がんでリスクが高く、その他多くのがんでもリスクが高くなる傾向が報告されています(2013年糖尿病と癌に関する委員会報告より)。

一方で、がんやその治療が糖尿病の発症や悪化を引き起こすことも少なくありません。がん患者は2型糖尿病の発症率が高いことが報告されており、中でも膵臓がんは特にリスクの高いがんです。がん治療中はステロイド投与や高カロリー点滴、経管栄養などで血糖値が上昇したり、膵臓がんや胃がんの手術の

## 乳がんの検査と治療

### 乳がんは早期発見が大切

乳がんは乳腺にできる悪性腫瘍です。女性の9人に1人が生涯で罹患するといわれています。

日本乳癌学会全国乳癌患者登録調査報告によると、乳がん発見のきっかけは、自覚症状がなく検診で見つかった場合が28%で、51%の方が自己発見されています。乳がんは早期であれば約9割が治るとされるため早期発見が大切です。早期発見には、定期的に行う乳がん検診と、月に1度自分で行う自己検診が重要です。早期であれば治療が軽くすむ可能性があります。例えば、広がりがない場合は部分切除を選択できたり、脇の下のリンパ節に転移がなければ、腋窩(えきか)リンパ節郭清(かくせい)ではなくセンチネルリンパ節生検ですんだり、さらに



県立静岡がんセンター  
乳腺外科副部長

たどころ ゆきこ  
田所 由紀子氏

1995年徳島大学医学部卒業。徳島大学医学部第二外科、高知市立高知市民病院外科、徳島県立中央病院外科、国立東徳島病院外科、徳島大学医学部胸部内分秘腫瘍外科講師を経て、2016年県立静岡がんセンター乳腺外科に着任。

は薬の治療も少なくてすむ可能性があるので。症状がある場合は検診ではなく、必ず病院を受診しましょう。

### 早期だと手術を縮小できる可能性も

乳がんの手術は乳房に対する手術と脇の下のリンパ節に対する手術の組み合わせで行われます。乳房に対する手術は、乳房を全て切除する「乳房全切除」、基本的に乳頭・乳輪や乳房を残して病巣を含んだ乳腺を切除する「乳房部分切除」の二つの方法があります。しこりが小さく、がんの周囲への広がりが少ない、放射線治療が可能、といった場合は部分切除が行えます。

脇の下のリンパ節に対する手術は、腋窩リンパ節郭清とセンチネルリンパ節生検という二つの方法があります。腋窩リンパ節郭清は、乳がんが最初に転移

するのは脇の下のリンパ節のため、脇の下のリンパ節を周囲の組織ごとひとまとめにして切除する手術です。これには、転移したがんを取り除くという治療の意味合いと、転移の有無や個数を調べるという検査の二つの意味合いがあります。リンパ節郭清は腕のむくみやしびれといった後遺症を伴います。

術前検査で脇の下のリンパ節に転移がないと診断された場合には、センチネルリンパ節生検の適応になります。センチネルリンパ節とは「がんの転移を見張るリンパ節」とも言われ、がん細胞がリンパ節に転移するとき最初にたどりつくリンパ節です。つまり、ここを調べて転移がなければ、奥の他のリンパ節への転移もないのではないかと判断でき、リンパ節郭清を省略することができます。転移があれば、リンパ節郭清をします。

### 個別化した薬物療法

乳がんの治療では、進行度が1期以上の場合は術前術後の補助療法として薬物療法が行われます。それは、目に見えず、画像検査にも映らない転移(微小転移)が体内に残っている可能性があり、放置しておくとならば、リンパ節郭清をします。

影響で血糖値が変動しやすくなる可能性があります。また近年では、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬などの新しい抗がん剤によって重篤な糖尿病を発症するケースがあり、注意が必要です。

糖尿病とがんには共通のリスクがあります。加齢、肥満、運動不足、偏った食事、過剰な飲酒、喫煙などです。生活習慣を見直すことは、血糖値を良くするだけでなく、がんリスクの減少にもつながります。

このように糖尿病患者はがんリスクが高いため、がんの早期発見に努めることがとても大事です。予期せぬ急激な血糖悪化、急な体重減少があったときはがんが隠れている可能性があり、注意が必要です。残念ながら、糖尿病の定期検査だけでは難しいため、適切ながん検診を受けることが大事です。糖尿病で通院しているから大丈夫と考え

### 治療の両立のために

糖尿病があると、がん治療において合併症が起こりやすくなるということが知られています。手術では創部感染などのリスクが高

乳がんの薬は、ホルモン剤と抗がん剤、分子標的薬の3種類があります。ホルモン剤は、女性ホルモンの働きを抑えてがん細胞の増殖を食い止めます。抗がん剤はがん細胞を殺しますが、正常な細胞にも影響を与え、吐き気や脱毛、白血球減少などの副作用があります。分子標的薬は、たんばく質や遺伝子など特定の分子の機能を抑え、がん細胞だけをピンポイントで攻撃します。患者さんのがん細胞を調べ、何に影響を受けて増殖するか、その進行度によってそれぞれ薬が決められます。現在、乳がんの薬物療法は個別化治療が進み、一人ひとりに適した細かい治療が行われています。

さらに近年、新たな治療法「ラジオ波焼灼(しょうしゃく)術」も始まりました。高周波のラジオ波で熱を発生させて、がん細胞を焼き固める治療です。一定

治療を目指して患者さんが頑張っているのはもちろん、私たちも10年後に「乳がん治療で、がんセンターにもう来なくていいですよ」と、患者さんに言えることを目標に治療にあたっています。乳がんの患者数は年々増加していますが、治療法は日々進化しています。怖がらず乳がんに対する正しい知識と理解を持つてください。

それでも高い場合はコレステロール値を下げる薬を使ってください。コレステロール値が高いという理由で、乳がん再発予防の薬を医師から指示された期間内に中断する選択肢はあまりお勧めしません。

大川先生 がん抑制効果と副作用をどこまで許容できるかのバランスが大事です。コレステロール値上昇は対処が可能なが多い副作用と言えます。動脈硬化リスクごとにコレステロール値の管理目標がガイドラインで定められていますので、それを超えてしまう場合にはコレステロールを下げる薬物療法を行いながら、がん治療を継続されるのが良いと思います。

## 質疑応答・タウンミーティング

会場では講演後に質疑応答を行い、受講者の質問に上坂先生、田所先生、大川先生が答えました。一部を紹介します。



Q 乳がんが肺に転移した場合、治療はどちらの臓器に合わせるのでしょうか?  
上坂先生 乳がんが原発で肺へ転移したということなら、抗がん剤の選択など、治療は乳がんとしての治療を行います。肺にがんがあっても、あくまでも乳がんから飛んできたがん細胞で、原発性肺がんの細胞とは性格が異なるからです。  
Q 乳がんの部分切除を行い服薬中ですが、その副作用でコレステロール値が上がっていますが、それを下げる薬も飲む必要がありますか?  
田所先生 薬によってはコレステロール値の上昇はありうるため、まずは食生活や運動などで抑える工夫が必要です。

まり、抗がん剤治療では副作用が出現しやすく、放射線治療でも皮膚障害、消化器症状が増える傾向が報告されています。

それでも、糖尿病があっても適切に血糖値をコントロールすることで、がん治療は十分に可能です。手術の前後は原則インスリンを用いた治療に切り替えます。抗がん剤治療中は、血糖も体調も乱れやすいため、体調不良時の対処法を事前に各担当医と確認をしておきましょう。必要に応じて血糖測定回数を増やしたり、糖尿病治療薬の調節を行うことで、安全に治療を継続することができま

糖尿病とがん、2つの病気の治療をうまく両立していくためには、チーム医療が欠かせません。担当医同士の連携をはじめ、看護師、薬剤師、栄養士など様々な医療スタッフが力を合わせて支えることで、より安心して治

### 糖尿病治療の最終目標は

糖尿病治療の目標は、単に血糖値という「数値」を下げることではありません。合併症や併存疾患を予防し、糖尿病がない方と変わらない寿命や生活の質(QOL)を得ることが最大の目的です。血糖値の改善はそのための手段のひとつに過ぎません。血糖管理を通じて、患者さんが健康で自分らしく過ごしていけるようにすることが重要です。その視点を常に大切にしながら、私たちは日々の診療にあたっています。